

特別企画



第 11 回 JEMEA シンポジウム報告

Reports on the 11th JEMEA Symposium

中部大学 工学部 榎村京一郎

〒487-8501 愛知県春日井市松本町 1200

2017 年 11 月 8 日から 10 日まで、愛知県名古屋市 WINC AICHI において「第 11 回 JEMEA シンポジウム」が開催された。2006 年に JEMEA が発足し、第 1 回目のシンポジウムが 2007 年 9 月に仙台市戦災復興記念館で開催されて以来、今年で 11 回目と言うことになる。今回は JR 名古屋駅より徒歩 2 分にある「WINC AICHI」でショートコース・シンポジウムが開催され、講演者・聴講者が簡単に会場にアクセスできるように配慮した。今回の JEMEA シンポ・ショートコースは、「新しいものづくりのためには、専門分野を超えたさまざまな学術・エンジニアリングを理解する必要がある」という想いで設計した。これは、我々の分野は様々な分野を連携し、新しいモノづくりを行っていくことが必要な分野であるため、この課題を克服することで、「電磁波エネルギーを利用した新しいものづくり」を実用化に寄与できると考えたためだ。

11 月 8 日のショートコースは「分野を超えたものづくりを目指して」と題して行なった。こうしたコンセプトのもとで、富士電波工機 仙田和章氏、信州大学 望月大氏、科学技術研究所 藤田明希氏、豊田中央研究所 福島英沖氏による講演が行われた(図 1)。そのため、仙田氏には化学や材料の研究者に合わせた講演を、望月氏には電気・物理系の研究者に合わせた講演を、藤田氏には数式を極力利用しないようにと依頼を行った。後で考えてみると、とても難しい(やや無謀な)依頼であったと思うが、開催趣旨に即したご講演を頂いた。また、今後我々が進む道を探るべく、豊田中研・福島氏には工学応用について重点的に話すように依頼した。これが数字として功を奏したかどうかはわからないが、ショートコースは予想以上の参加総数を達成し[76 人(内訳: 会員 49 名、非会員 28(協賛団体 6 名含))], 非常に好評であった。講師の先生方の御尽力に心より感謝したい。

シンポジウムにおいては、中部大学 教授 山本尚氏、京都大学生存圏研究所 教授 渡邊隆司氏による特別講演、東北大学助教 福島潤氏による JEMEA 進歩賞受賞記念特別講演、そして毎年恒例の機器展示企業によるプレゼンテーションがあった(図 3、図 4)。口頭発表 59 件、ポスター発表 21 件も行われた(図 2)。参加人数は、シンポジウム 172 名、ショートコースのみ参加 9 名で合計 181 名となった。懇親会も WINC AICHI にて行なわれ、75 名の参加を頂き、会員の親睦を深める事ができた。九州工業大学 大内将吉氏より、来年度のシンポジウムが九州地区において開催される

予定である事がアナウンスされた。東海のグルメや銘酒がメニューに多種含まれ、参加者に喜ばれた。

また、その他特筆すべき点について、上智大学 堀越智氏、産業技術研究所 西岡将輝氏により、パネルディスカッションが催された。マイクロ波発振器は、これまでのマグネトロン方式から半導体方式へ転換される可能性が示されている。パネルディスカッションではこの最新技術と我々がいかに付き合っていくべきか、及び、どのような先を見据えていくべきかを図るために、様々な議論が活発に展開された。

最後に、本シンポジウムは、著者の所属に拘らず、新進気鋭の若手研究者を実行委員として選出し、経験豊かな顧問を配置した。今回、学会や団体から 9 件の協賛を得ている。機器展示は 17 社のブース出展、広告は 8 社からご協力をいただいた (図 4)。多忙な毎日の中で、今回のシンポジウムの運営や多くの作業を行なって頂いた現地実行委員の努力や、JEMEA 事務局佐藤容子氏の献身的な貢献に心から感謝するものである。

図 1



図 2



図 3



図 4

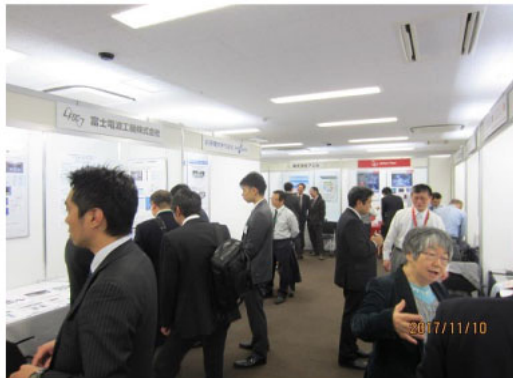


図 1 ショートコースの様子 図 2 ポスター発表の様子

図 3 特別講演の様子 図 4 企業展示の様子